

平成 28 年 4 月 16 日

北関東フォーラム

於：シムックス

## 中斎塾 北関東フォーラム 平成 28 年度第 4 回

先程の猪瀬理事長の挨拶で、「何も考えずに人前に出て、何をしゃべれば良いか瞬間に考える」と言っておられました。そう言っている間に、脳みそは回転します。

中村天風先生のエピソードをご紹介します。天風先生が師匠の頭山満先生の講演にお供した時のこと、壇上に上がった頭山先生は、大勢の人の前で何分間かずと黙ったままで睥睨しておられる。会場がざわついたところで、開口一番、「私は話が下手だから、代わって天風に話をさせる」と言って下がってしまった。いきなり振られた天風先生は、自分が考えていること滔々と話されて、以来、人前で話をする自信がついたそうです。

皆さんも急に話を振られて困った経験があると思います。私の場合、話をする中身が浮かばない時は、周りを見渡して、この人と思う人物を見つけて、この人は何が聞きたいかな？ どういう話がいいかな？ と考えた瞬間に何か浮かんで来ます。そうして浮かんできたことを話し始めると、どんどん話が広がっていきます。あとは日頃から時間を意識し起承転結で話をするのが身に付いていますから、話を始めて(起)から、話を広げて(承)、途中でまるで違う話を挿入して(転)、最後は時間内に収める(結)という具合に進めるようにしています。

急に話を振られて頭が真っ白になった時、何か一つポーンと浮かんで来れば、そこから話が広がります。例えば、論語の中の言葉でもよいでしょう。日頃から論語の中で良いなと思う言葉を覚えておくと、急に話を振られた時、役に立ちます。

それから、何か一つ自分の専門分野・得意分野を持っておかれるとよいでしょう。その分野については、深く広く話をする事が出来ます。昨日、「カレント」を発行しておられる矢野弾先生にお話を伺いました。さすがに経済の専門家だと感心したのですが、矢野先生の口から正確な数字がポンポン出てくるのです。ご本人は、訓練を重ねた結果、データがポンポン出てくるのだとおっしゃっていました。皆さんもご自分の仕事の中で、これは人に負けないというものを磨きに磨いて、人さまに説明できるとよろしいでしょう。その説明の仕方も特訓する必要があります。

**情報・知識を座標軸に当てはめる**

論語の素読に関しては先ず、きちんと素読が出来るようにします。次に、論語の中の登場人物が生き生きと動いているようなイメージが出来ると良い、映像を見るように論語を読むとよろしい。更に、現代に置き換えて読むと良いと申し上げています。

前回、新聞の読み方として、縦軸と横軸に当てはめて読むとお話しました。縦軸は日本の国の歴史・哲学、日本人の日本人たる所以を考える、背骨です。横軸は色々な学問、情報・知識ですから、それらをどんどん広げていけばよろしい。

論語を読む時も同じです。論語を読んで何がひらめくかがポイントです。ひらめいたものを情報・知識として縦軸と横軸の座標軸にどんどん並べていきます。そうすると、それらの情報・知識が混ざり合っ、ある日突然爆発をします。それが、論語を我が物とする王道であると思っています。

情報をどんどん取り入れていくと、情報が散乱します。それらをまとめ体系化したものが学問です。尚且つ、生きる上での根本的な知恵、根本的なものの考え方、人間を形成するもの、それを考えて、掘り下げて、突き詰めて考え抜く学問を哲学と言います。

では、解説を致します。本日の論語は憲問篇 27～30 です。

**【二七】子曰く、其の位しゐに在らざれば、其の政まつりごとを謀はからず。**

孔子が言うには、責任のある地位にいる人でなければ、政治のことを論議してはいけない。

今の政治家は無責任なことを言いすぎます。政治家が責任あるポジションに就いたなら、その地位にふさわしい判断力を磨き、その地位でしかるべき発言をすべきだと言っています。「齒舞・色丹」が読めないような人物が、北方領土担当大臣を引き受けるべきではないと思います。

今回の地震について、「平成 28 年熊本地震」と命名されました。阪神淡路大震災の時も、東日本大震災の時も名前が決まるまで時間がかかりましたが、今回は気象庁が早々と熊本地震と命名しました。ただ相変わらずだと感じたのは、報道されている中で「支援の要請があれば、即、動きます」という言葉が結構ありました。阪神淡路大震災や東日本大震災で学ばなかったのか、と感じます。サイレント・タイムが浸透したのは良いことだと思いますが、生き埋めになった人たちが支援要請など出来るはずがありません。壊滅状態になってしまったら支援要請など出来るわけがありません。ところが今回も、政府は「熊本県知事が安倍首相に支援要請をした。それを受けて安倍首相は動いている」という記事です。

おかしいですね。震度7であれば最大の地震ですから、支援要請など無くても直ちに動くべきです。

「其の位に在らざれば」の部分で考えると、県知事は自分のルールに従って、安倍さんも自分のルールに従ってそれぞれ動いているのでしょうが、初動態勢が肝心だから、日本政府はもっと考えなければいけないと感じました。

我々の立場で考えると、とにかく食料の確保が肝心です。阪神淡路大震災以降、東京都は3日分の水と食料を備蓄するよう呼びかけていましたが、今は1週間分になりました。防災担当の方に聞くと、3.11のような大地震が来たら、3ヶ月間は自分で何とかしてほしいという話が返って来ます。ですから我々は最低3ヶ月分の食糧を用意しておく必要があります。それから、相互支援協定の仕組みを作っておくこと。何かあったらお互いに助け合う、そういうお付き合いを常日頃からしておくことが大切です。

### 【二八】曾子曰く、君子は思うこと其の位を出でず。

曾子が言うには、立派な人物はその職務以外に余計な口出しをしない。

前の文章と同じ意味になります。自分の職務以外の領分を侵さない、と考えればよいでしょう。しかし今の日本の官僚の縦割り組織は、あちこちに弊害が出ています。そういう意味で、これは違った理解をされていると感じます。

### 【二九】子曰く、君子は其の言の其の行に過ぎんことを恥ず。

孔子が言うには、立派な人物は行動以上に言い過ぎてはいけない。

言行一致が良いですね。行動したら最後までやり遂げるように努力しましょう。今の時代、言葉が先に立つことが多すぎます。自分自身の言動を見直しすることをお勧めします。

### 【三〇】子曰く、君子の道なる者三つあり。我能くすること無し。仁者は憂えず。智者は感ぜず。勇者は懼れずと。子貢曰く、夫子自ら道えるなりと。

孔子が言うには、君子のなすべき道は三つあるが、私はまだまだ出来ていない。即ち、仁徳のある者は心配しない。智恵のある者は迷わない。勇敢な者は懼れない。

それを聞いた子貢が、先生はご自身でそう言われるが、我々弟子からみれば十分お出来になっている、と言った。

「知者は惑わず、仁者は憂えず、勇者は懼れず」は有名な章句です。ご自分はどうか、或いは今の政治家はどうか等々、置き換えてみるとよろしいでしょう。

### **健康法の実践**

昨日一日でお答えください。

- 昨日は良い日だった方
- 昨日は嘘をつかなかった方
- 昨日、有難う言い、有難うと言われた方
- 昨日、健康法をされた方

どなたか、ご自分の健康法を紹介して下さる方はいませんか？

(塚越参事実践) 大きな声を出す健康法を実践しています。昨日は市内の公園で、仲間十数人で声量訓練・声勢訓練をしました。先ず、呼吸を整えます。丹田まで息を吸い込むイメージで、五秒で吸って十秒で吐く。そして「だーっ」と大きな声を出します。

- 昨日、自分磨きをした方
- 昨晚寝る時に、明日以降を過去形でイメージ出来た方

これが自由自在にイメージ出来る方は、小金持ちから中金持ちになるかもしれません。

### **足るを知る・・・世界を良くするキーワード**

中斎塾フォーラムの基本哲学は「知足」(足るを知る)です。「知足」については色々な書物がありますから、どうぞ御覧戴きたいと思います。知足について自分で考えて行動することはとても良いことですし、自分が磨いたものを世の中に広げていくのもよいと思います。

足るを知るという考え方は、私は外国人にはなかなか理解し難いと感じます。勿論、外国の方でも知足を考える方はいますし、「もったいない」「おかげさまで」という言葉を広げている方もいます。しかし、この考え方を身体で分かるのは日本人以外にはないという気が致します。外国の方でも日本に来て伊勢神宮や出雲大社に参拝し、知足の心を身体で感じるような人が増えていけば、世界も良くなると思っています。ですから、日本を良くし、世界を良くするキーワードは「足るを知る」という言葉だと思っています。どうぞ、毎日味わって戴くとよろしいでしょう。

## 歴史は繰り返す

本日のテーマは「歴史は繰り返す」です。

前日も申しましたが、昭和21年2月17日に金融緊急措置令が出されました。私は、同じことが繰り返されると思っています。

金融緊急措置令は、木内信胤・愛知揆一・池田勇人・福田赳夫・工藤昭四郎・山際正道らが密室の会議を重ねて決定し、公布された翌日には実行されました。その中身は、新円切換えと預金凍結、更に財産の強制調査です。銀行でお金が下せなくなりました。旧円を無効にしたので、タンス預金も使えなくなりました。更に、各個人は国に財産を報告しなければならなくなりました。一般庶民は財産税 25%をかけられ、お金持ちは90%の税金がとられましたから、国民は丸裸になりました。

歴史は繰り返すという観点で、私は、また同じようなことが起きるとい話を何度もしています。自然災害も同じです。結論は、自給自足をしましょう！に尽きます。歴史は繰り返すですから、お金はもう使えなくなる。お金に振り回される時代は、そろそろ終わりです。右肩上がりをずっと続けても、人口は減っていくのですから、必ずどこかで成長は止まります。右肩上がりは、必ず落ちるのです。周りを見ても、三洋電機はもうなくなっていました。今、三井・三菱も赤字です。お金に振り回される企業は、そこらへんを良く考えないと生き残れません。個人も同じです。会社であろうが個人であろうが、右肩上がりを成長と捉える考え方は、お終いです。

セブン&アイホールディングスのお家騒動も、歴史は繰り返すという部分で見ると、同じようなことをしていると感じます。だいたい、一つの会社を創業し順調に行くのは30年です。30年経てばボロボロになります。社長も世代交代です。会社も社長も30年寿命説がありますが、私は正しいと思います。30年間必死に走り続けていれば、身体はガタガタになって当たり前です。次の後継者に上手くバトンタッチ出来れば会社は伸びるかもしれませんが、大きな時代の流れからいって、もう資本主義は終わりです。資本主義が終わった後は、知足主義が到来すると私は考えています。

## 幸せは幸せを呼ぶ

本日ご紹介する本は、『幸福は幸福を呼ぶ』（宇野千代著 集英社文庫）です。本の中に、こんなお話があります。宇野千代さんが75歳のころ、お風呂に入っていて風呂場の鏡を見ると、自分の姿がイタリア絵画のビーナスのように見えたそうです。「お風呂の湯気と、眼がかすんでよく見えなくなっていたからだったけれど、その時間はとても幸せだった」

というのです。「幸せは自分の心が決めるもの、幸せと思うと次々に幸せが生まれてくる」と書いておられます。とても良い本ですのでご紹介します。

もう一冊ご紹介するのは『物の見方 考え方』（松下幸之助著 PHP文庫）です。その中にこんな文章があります。「六十歳ぐらいになると、知力も体力も非常に落ちてくる。しかし、たとえ社長が年をとって知力・体力が落ちても、幹部の人たちがその社長の立場を認めることによって、さらに仕事をするができる。単に会社の一員として勤務しているに過ぎないというものではなくして、自分も会社の経営を分担しているという自覚を持っていると、その人も経営者となってゆくし、そういう考え方が会社を発展させることが出来る」とあります。宇野千代さんと同じで、松下幸之助さんも物の見方・考え方が良い方に循環をしています。

お時間が参りましたので、今朝の新聞から気になったパナマ文書について少し申します。パナマ文書については、皆さんご存知のように税金逃れの錬金術です。

国家が疲弊してきた時は、税金は減らさなければいけません。国家を救う道は減税しかないと木内信胤先生は言うておられます。ところが今の日本は逆で、国家が減びる方向に向かって税金を高くとっています。私は経済破綻を起こした国々を回ってみましたが、皆一様に汚職・賄賂が蔓延っていました。その点を考えると、日本は一変には駄目にはならないでしょう。中国は汚職・賄賂が凄まじいから、潰れるべくして潰れるだろうと思っています。

パナマ文書に出て来た人達は高級官僚や政治家、富裕な経営者たちです。国も会社も個人も襟を正して、正しいと信ずることを一步一步着実に進めていくことが、その国を発展させ、会社を伸ばし、個人も磨いていくと思っています。自分の節操を曲げて業績を伸ばしても、良いことはないと思っています。どうぞ、正しい道を真っ直ぐに我々も進んで参りましょう。

以上で本日の講話を終了致します。有難うございました。